

申し合わせ及び注意事項

【申し合わせ事項】

本大会の競技は、2019年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則により行う。但し、本連盟において別の定めのある場合はこの限りではない。

○ 登録・資格

- 以下のいずれかに当てはまるものとする。
 - 愛知、岐阜、三重、静岡の各県バレーボール協会に正式に登録された者によって組織されたチームとする。
 - JVA-MRS登録、及び全日本大学バレーボール連盟登録がされている者によって組織され、且つ、東海大学バレーボール連盟が認めたチームとする（例：選抜チームの出場など）。
- トレーナーについては、トレーナーとして団長が認めた者をベンチに入れることができる。
- 団長、監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）、選手の変更は、正式届出用紙で届け出のあった場合に限り、代表者会議においてこれを認めることができる。但し、同一チーム複数チームの選手の移動は認めない。また、大会当日のエントリーは最大14名とし、この14名は試合毎の変更は認める。
- 監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）については、1試合目は試合開始時刻の30分前までに、2試合目以降は、前の試合の第1セット終了までに代理変更届にて届け出のあった場合のみ、その試合に限り参加申込書に登録されている者の中から代理を認めることができる。但し、正当な理由があり、代理変更届の提出が遅れる可能性がある場合は、事前に本部へ申し出ること。
- 2チーム以上にわたる監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）、選手の登録は原則認められないが、同一大学内の男子チーム、女子チームの監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）は、両チームへの登録を認める。団長は学生でない者に限る。団長は、複数チームの兼任を認めるが、大会を通じて一つのチームのみにしか帯同することが出来ない。監督、コーチ、トレーナー、マネージャー（主務）は選手と兼ねることができる。
- 公式記録員には審判講習会参加者又は公式記録用紙が記入できるものとする。

○ 競技運営

- ベンチには有効に登録された団長1名、監督1名、コーチ1名、トレーナー1名、マネージャー（主務）1名、選手14名以内の計19名以内の着席を認める。その際、監督は試合中ベンチで記録席に最も近い位置にいないといけない。但し、男子チームの女子マネージャー（主務）、女子チームの男子マネージャー（主務）は当該学生であること。団長章・監督章・コーチ章・トレーナー章・マネージャー（主務）章は各チームで揃え、必ず左胸部に付けること。又、主将章は胸中央部の番号の下につけること。各章がついてない場合は、ベンチに入ることを禁止する。
※団長のマークは、部長のマークでの代用を認める。
- チームの構成人数とリベロ競技者の数については、以下のように定める。尚、下記の「正規競技者」にはリベロ競技者を含む。
 - 正規競技者が12名以下の場合、リベロ競技者数は0名、1名、2名のいずれでもよい。
 - 正規競技者が13名以上の場合、リベロ競技者数は2名でなければならない。
- 背番号は参加申込用紙に登録された1番から99番までの番号とし、その変更は認めない。但し、代表者会議において正式届出用紙で届け出のあった場合に限り変更を認める。尚、1番から18番までの一連の番号を使用することが望ましい。
- エントリー用紙は、1試合目は試合開始の30分前までに、2試合目以降は、前の試合の1セット目終了までに大会本部に提出すること。但し、正当な理由があり、エントリー用紙の提出が遅れる可能性がある場合は、事前に本部へ申し出ること。
- 試合前に不正な選手のエントリーが発覚した場合、不正な選手をベンチから外して試合を通常通り実施する。試合中に不正な選手が発覚した場合、当該セットを没収試合とし、試合を続行する。試合後に不正なケースが発覚した場合、不正な選手が出場した試合を没収試合とする。ただし、ミス自体は当該チームの責任とする。
- 試合形式
トーナメント戦を中心とし、参加チーム数によってリーグ戦、順位決定戦もあわせて行う。
 - 競技方法
 - ☆3セットマッチ（リーグ戦の3セット目は15点制、決勝トーナメント戦の3セット目は25点制）・・・全試合
 - *リーグ戦形式の順位決定方法
次の採点法を用いて順位を決定する。勝ち点が多いチームを上位とする。
勝者－2点、敗者－1点、棄権または没収試合－0点
この方法によって、2つあるいはそれ以上のチームが同点となった場合は、下記の方法によって順位を決定する。
 - Ⅰ セット率（取得したセットの総数を、喪失したセットの総数で割ったもの）が高いほど高順位とする。
セット率＝全試合の取得したセット総数 ÷ 全試合の喪失したセット総数
 - Ⅱ Ⅰの計算によってもなお同順位となった場合はポイント率（全試合の総得点数を全試合の総失点数で割ったもの）が高いほど高順位とする。
ポイント率＝全試合の総得点数 ÷ 全試合の総失点数
 - Ⅲ Ⅱの計算を行ってもなお同順位がある場合、次の方法による。
 - (a) 2チームの場合は、相互の試合の勝チームが上位となる。
 - (b) 3チーム以上の場合は、当該大会の大会委員長、競技委員長、審判長が順位決定方法を決定する。

・試合開始設定時刻

第1試合のみ設定し、第2試合目以降は前試合終了の吹笛から15分後にプロトコールとする。但し、連続試合の場合、最大20分を限度として休憩時間をとる。(前試合の試合終了の吹笛から次試合のプロトコールまで) サーブ、コート及び公式練習の前後の決定は、記録席前で審判員立会いのもとで、1回のトスにより行う。第1セットのオーダー用紙は、公式練習の前に審判員に提出する。

7. 原則として、試合開始予定時刻より15分経過しても選手が6名に満たない場合は、そのチームは棄権したものとみなす。但し、遅刻について正当な理由がある場合は理事長・大会委員長・競技委員長の判断により対処するが、そのようなケースが起り得る状況になった場合は直ちに学連役員に連絡をつけなければならない。
 8. コートオフィシャルは準決勝、決勝以外の試合は主審(1)、副審(1)、ラインジャッジ(4)、スコアラー(1)、点示員(2)の計9名、準決勝は副審(1)、ラインジャッジ(4)、スコアラー(1)、点示員(2)の計8名、決勝はラインジャッジ(4)、スコアラー(1)、点示員(2)の計7名を出してもらふ。但し、補助役が必要人数に満たない場合は、チームが責任を持って補充すること。
 9. チーム役員、補助役の服装
 - ・試合中、ベンチに入るチーム役員は、ジャケットを着用するか、チームで統一されたトレーニングウェアを着用しなければならない。
 - ・団長・監督がジャケットを着て、コーチ・トレーナー・マネージャー(主務)がトレーニングウェアを着用してもよい。
 - ・プレーヤーと違うトレーニングウェアを着用する場合は、チーム役員は統一されたものを着用すること。また、ベンチに入るチーム役員が学生ではない者と学生の場合は学生でない者と学生で服装が違っていても良いが学生でない者同士、学生同士で統一すること。
 10. 公式練習時間は各チーム3分(合同6分)とする。
 11. 原則として、公式練習時にメンバー以外の役員、選手は参加できないが、エントリーされた選手以外に最大8名のボールコレクターをアリーナ内に出すことを認める。又、ボールコレクターは、ユニフォームを着用しないこと。原則、チームで統一された服装(チームウェア)を着用すること。(両チーム8名までとする)
 12. 競技中にタイムアウトの要求が出来るのは、監督とゲームキャプテンだけである。尚、審判及びゲーム内容について質問出来るのは、ゲームキャプテンのみである。
 13. ユニフォームについて
 - ・ユニフォームのデザインはチームで統一(リベロ・プレイヤーを除く)されていなければならないが、ユニフォームの袖の長さはチームで統一されていなくてもよい。
 - ・ソックスは長さや色が統一されたものを着用しなければならない。くるぶしが見えるような短いソックスを履いてのゲームの参加は禁止。(但し、ワンポイントのデザインが違う程度であれば着用を認める。)
 - ・ハイネックのアンダーウェアもユニフォームの一部である為、チームで統一して着用していない場合ユニフォームから明らかにみ出しているものは着用を認めない。
 - ・ユニフォームのショートパンツからはみ出したパワーパンツは禁止する。また、ユニフォームの上から腰に巻くようなゴムのベルトやプロテクターは、明らかに色が違う場合には、ユニフォームの下に着用すること。
 14. コートオフィシャルの服装についてはチームで統一すること。
 15. クイックモップ制
 - ・試合中のワイピングはコートの選手で行うことを原則とするが、ワイパー専門の2名を置くことを認める。但し、ユニフォームは着用しないこと。
 - ・待機場所は、1名は記録席のすぐ隣り、もう1名は自チームのベンチ最後部とし、低い姿勢で待機し、コート内に汗等が付着した場合には、素早くワイピングタオルで拭き取りコート外に出ること。又、セット間、タイムアウト間にモップでコートを拭き取ることを認める。
 - ・ワイパー専門の2名はチームとは別の組織のものとする。また、チーム事情によりクイックモップを出す事が不可能な場合はコート上の選手が、各自ワイピングタオルを持ち拭き取ること。
 16. クーラーボックス、ボトル、救急箱等はベンチの後ろに置くこと。
 17. 次の試合の選手、役員は試合終了の挨拶が終了するまでアリーナに入ってはならない。
 18. プロトコール前には、その試合のコートオフィシャル(主審、副審、スコアラー、ラインジャッジ、点示員)は指定された場所に集まり事前ミーティングを行うこと。
- ※ 以上の事項に違反した場合は、理事長・大会委員長・競技委員長の会議により処置を定める。

[注意事項]

1. トスは必ず各チームの主将がユニフォームを着用して行う。各チームは早めに集合場所に集まること。
2. 会場に到着したチームは直ちに本部受付にその旨を連絡すること。
3. 各チームルールブックを熟読し試合運営の円滑化に協力すること。
4. スコアラー、ラインジャッジのミスは極力しないこと。
5. 机、椅子などの指定以外の持ち出しは厳禁とする。
6. 大会会場は混雑するので盗難予防の為、所持品は各チームが責任を持って管理すること。
7. 喫煙、飲食等については、その会場の規則に従うこと。

8. ガラス、照明等の会場の一部を破損した時は、その旨を本部に連絡すること。
9. 各チームの控え場所は必ず掃除をして会場をでること。
10. ベンチには部旗（矢尻をはずしたもの）、飲料、救急用具等の必需品以外の物を持ち込むことを禁止する。
11. ゲーム中のボールデットの処理は線審の手をわずらわすことなく選手間で行う。
12. リベロベストの着用は認めない。
13. ユニフォームのナンバーは、胸部の高さは、最小限15cm、背部の高さは最小限20cmのものでなければならない。ナンバーの字幅は、最小限2cmである。
14. 審判及び監督は試合終了後、お互いに敬意を払って挨拶（握手）を心掛けること。

2019年12月6日 改正